

令和7年度 指定管理者モニタリング結果及び評価シート

評価期間 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日

施設状況

施設名称	ふじみ野市立介護予防センター	所管課	高齢福祉課
指定管理者名	社会福祉法人 奉優会	施設分類	保健・福祉施設
指定期間	令和4年4月1日 ～ 令和9年3月31日	利用料金制導入	一部利用料金制（利用料金及び指定管理料）
導入年月日	平成31年4月1日	指定回数	2回
施設設置目的	全ての世代を対象とした地域包括支援体制を構築し、高齢者の介護予防並びに市民の福祉の増進及び福祉意識の高揚を図ることを目的としている。		
施設概要	旧かみふくおか西デイサービスセンターの閉所後、平成31年4月に介護予防センターがオープンした。ふじみ野市立介護予防センターは、ふじみ野市の介護予防の拠点ならびに市民の福祉の増進及び福祉意識の高揚を図るため、様々な事業や情報発信を行う。		
管理運営の基本方針	(1) 高齢者の介護予防並びに市民の福祉の増進及び福祉意識の高揚を図るため、地域との連携に寄与できるよう管理運営を行うこと。 (2) 公の施設として、その利用に際して平等かつ公平な管理・運営を行うこと。 (3) 質の高いサービスの提供と効率的な業務の執行により、施設の特性を最大限活用できるよう、創意工夫に基づく効果的な管理運営を目指すこと。 (4) 地域住民や利用者の意見・要望等を真摯に受け止め、利用者サービスの向上に努め、施設の利用促進を図ること。 (5) 施設・設備の内容を十分に把握したうえで、すべての施設・設備を清潔かつその機能を正常に保持し、施設利用者に快適で安全な利用を供することができるよう適正な維持管理を行うこと。 (6) 個人情報の保護や各種法令遵守を徹底するほか、危機管理意識に基づく健全かつ安全な業務執行を図ること。 (7) 管理運営費の節減に努めること。		
指定管理者の主な業務	(1)ふじみ野市立介護予防センターの事業の実施に関すること。 ①介護予防ホール、機能訓練室、栄養改善室、交流活動室及びこれらの附属設備の利用に関すること。 ②介護予防の情報提供及び普及啓発に関すること。 ③介護予防地域活動のサポートに関すること。 ④認知症家族介護支援に関すること。 ⑤高齢者の生きがい活動支援に関すること。 ⑥世代間の交流促進に関すること。 ⑦その他、介護予防センターの設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。 (2)介護予防センター施設及び設備の維持管理に関する業務(施設全体) (3)自主事業に関すること。 (4)その他、ふじみ野市立介護予防センター仕様書に記載する業務		

評価項目

【評価基準】 5：指定管理者のノウハウや努力等により、要求水準を大きく上回っている場合
4：要求水準を上回っている場合
3：要求水準を満たしている場合
2：要求水準を下回っている場合
1：要求水準を大きく下回る場合（改善指導が必要）

1 施設の設置目的の達成に関する取組

施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか		評価
管理運営状況	介護予防の拠点として情報発信の強化、地域との連携、介護予防事業の充実及び高齢者の居場所づくりの推進に引続き取り組んだ。また、専門職の知見を生かした講座や相談事業を実施するとともに、利用者が安全・安心に利用できる環境づくりに努めた。	4
区分	具体的な取組の状況・実績	
介護予防の拠点	新規登録者211名（前年比約81.5%）となり令和6年度を下回ったが、利用者総数は39,318名（前年比約110.0%）と増加した。特に男性の講座参加者数が6,271名（前年比約131.2%）と増加し、男性限定の開催やロコミ、多世代交流イベントの開催から利用拡大が進んだ。安全管理を徹底しつつ、事業内容の工夫・改善を重ねることで、多様なニーズに対応した運営を実現することができた。	
介護予防事業の実施および情報発信	市指定事業27種1,444回、自主事業47種526回、多世代交流事業3種を展開し、事業の充実を図った。新規事業では、認知機能向上や身体機能維持・向上に資する講座を実施したほか、生活課題に対応した内容も取り入れた。また、季節行事等を通じて社会参加の機会を創出した。	
居場所の創出	館内装飾事業(介護支援ボランティア対象事業)では、季節に応じた飾りの制作から設置までを担っていただき、主体的な参加を促進した。また、畑・花壇を活用した菜園ボランティアには年間74回、延べ424名が参加し、体験会やジャガイモ販売会も年2回開催するなど、多様な事業で活躍の場を提供した。また、2つの自主グループ立ち上げを支援した。事業準備の補助等を通じて利用者に役割を付与することで、交流と生きがいのある居場所づくりを推進した。	

2 指定管理者の健全性

団体の財務状況や組織体制は安定していて、施設管理を継続的、安定的に行うことができるか		評価
外部専門家からの指摘事項の概要	自己資本比率は55.2%で良好。前期から引き続き、収益、利益ともに、順調に推移。連続して黒字。	3
その他特記事項	社会福祉法人として安定的な財務状況および組織体制が構築できている。また、法人は令和7年度に介護予防センター類似施設を26事業所運営しており、施設管理ノウハウを水平展開し、継続的・安定的に行うことができている。	

3 施設の有効活用

		利用区分等	予定（計画・目標） 単位	利用実績 単位	対前年比	年度目標達成率	評価
施設利用状況		新規登録者数	230 人	211 人	81.5%	91.7%	
		施設利用者数	35,000 人	39,318 人	110.0%	112.3%	
		機能訓練室利用者数	6,000 人	6,620 人	99.0%	110.3%	
	(特記事項)						
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案		追加事業、未実施事業及びその理由			
	市指定事業	医師講演会、医師会・歯科医師会ミニ講座、介護予防講演会、ふじみんぴんしゃん体操、ふじみんお口ぴんしゃん体操、ふじみんぴんしゃん体操ロング、歯科衛生士ミニ講座、足腰ラクラク体操、筋力向上トレーニング教室、やさしい体操、歩き方教室、骨盤底筋トレーニング、ファイブ・コグ検査、楽しい脳トレ体操、脳活トレーニング教室、ぴんしゃん体操サポーター養成講座、低栄養予防教室（講話・調理実習）、体力測定会、ふじみん介護予防手帳普及啓発事業、機能訓練室初回講習会、機能訓練室フォローアップ講習会、看護師講話、菜園ボランティア、介護予防フェスティバル、オレンジフェスティバル、リハビリ・トレーニング相談、栄養・食事相談、健康相談		追加事業	栄養つなぐプロジェクト（管理栄養士ミニ講座と理学療法士の介護予防運動を組み合わせたプログラム）、社協とのみんなで遊ぼうPROJECT（昔遊び）		
				未実施事業	なし		
	自主事業	季節のコンサート、納涼祭、盆踊り練習会、ヨガ教室、健康太極拳、スローエアロビック、空手ビクス、スポーツ吹き矢、子ども大人も昔遊び、モルックで遊ぼう、多世代交流食堂（社協との多世代クリスマス会）、歌声広場ボイストレーニング、初心者向けスマートフォン講座、スマートフォンお悩み相談室の楽しい小物づくり（わくわく工作）、高齢期の難聴と会話のポイント、折り紙教室、ぬり絵広場、お昼の体操、男性もモルックで遊ぼう、ミニ講座、テレビゲームボウリング、終活講座、飾りつけ、ナンプレ教室、写経の会、映画鑑賞会、美容講座		【追加事業】 ミニ年越しそばのお振舞、敬老の日記念コンサート、朝活、落語会、椅子deヨガ体験会、消防訓練、利用者懇談会、トルト事前測定会、盆踊り教室、手作り品マーケット、菜園ボランティア体験会・ジャガイモ販売会、警察による注意喚起講座、テレビゲームダーツ体験会、テレビゲームボウリング交流会、高齢者住宅防火の火災予防講座、介護予防ワークショップ、ヨーグルトセミナー、男性の料理教室、季節の和菓子実習、ボランティアマッチングシステムYELLを活用したネイルボランティア			
利用サービス向上の取組		センター職員の専門性やノウハウを生かすとともに、外部講師、利用者ボランティア及び関係機関と連携し、新規事業の実施及び多世代交流の充実を図った。スマートフォン講座や健康講座、特殊詐欺の注意喚起講座、防犯・防災講座等、現代のニーズに即した講座を実施し、利用者の利便性及び満足度の向上につなげた。また、利用者懇談会を実施し、利用者の意見を事業運営に反映し、講座内容や運営方法の改善を図った。これらの取組により、利用者の主体的な参加を促進するとともに、継続的に参加しやすい環境づくりとサービスの質の向上につながった。					

4

4

4 利用者評価

区分	内容		評価
利用者の要望把握	(1) 利用者要望把握方法	利用者満足度アンケート（年1回）、利用者懇談会（年1回）、講座実施時のアンケート、職員の定期巡回、ご意見箱（センター内に設置）	
	(2) 調査内容	10月1日～10月14日に利用者満足度アンケートを実施 ①利用のきっかけ・頻度・利用の理由・講座参加の有無②清掃状況・掲示物のわかりやすさ・質問要望の伝えやすさ、対応のスピード・公平性・個人情報保護の取組・ホームページの情報提供③職員の対応、服装や言葉遣い、説明のわかりやすさ④センターを利用した効果⑤総合満足度を調査した	
	(3) 調査結果	アンケートは178件回収。週2回以上利用する方が6割を超えている。「衛生面・安全面」や「職員の対応」で高い評価を得ている。一方で「案内や掲示物のわかりやすさ」が前年度より低下しているため工夫が必要。総合満足度は「満足」53.4%、「やや満足」32.6%、「どちらともいえない」5.1%、「やや不満」1.1%、「無回答」7.9%であった。調査結果はセンター掲示板やホームページに掲載した。	
利用者からの評価・要望・苦情等	(1) 良好とする評価	利用者満足度アンケート及びご意見箱より ・講座の種類が豊富で、様々な知識を得ることができている ・ふじみんぴんしゃん体操に参加することがルーティーンになり、生活にハリが出た ・職員の対応が良く、通うのが楽しみ 等	4
	(2) 苦情・改善等の要望事項	利用者からの投書・電話・窓口にて（月次報告で市に報告済み） ・抽選結果の日にちを勘違いしてしまうことがあるため、簡単にわかるよう工夫してほしい ・機能訓練室の振動マシン（VIBLA）が故障し撤去されたが、早く新しい機器を入れてほしい 利用者満足度アンケートより ・講座申込時に電話がつながりにくい ・講座がすぐ満員になってしまい、キャンセルが出てもわかりにくい ・掲示物やチラシが多く見づらい 《対応措置》 ・講座申込時の電話混雑を緩和するため、申込開始日を分散化、抽選講座を増やした ・モルック等人気の講座は月2回開催し、二部制を導入 ・キャンセル待ち制度を導入し、空きが出た際には個別に連絡 ・苦情要望があった際は法人様式のひやりはっと報告書や状況報告書を作成し職員間で共有し早急に対応した	

5 事業収支					(単位：円)					
①指定管理 業務事業収支	指定管理者収支（ 令和7年度 ）				市の収支				評価	
		年度計画額		収支実績額			令和7年度決算		令和6年度決算（前年度）	
		項目	金額	項目	金額		項目	金額	項目	金額
	収入	利用料金	325,000	利用料金	318,300	歳入	施設使用料	0	施設使用料	0
		事業収入（市指定事業）	0	事業収入（市指定事業）	5,800		行政財産使用料	0	行政財産使用料	0
		指定管理料	41,003,000	指定管理料	41,003,000		国庫支出金	10,254,483	国庫支出金	10,239,076
		雑入	289,000	雑入	134,999		県支出金	5,127,242	県支出金	5,119,538
		自主事業からの充当	0	自主事業からの充当	0		支払基金（2号）	11,074,842	支払基金（2号）	11,058,202
							1号保険料	14,164,124	1号保険料	9,419,950
		計	41,617,000	計	41,462,099		計	40,620,690	計	35,836,767
	支出	人件費	25,201,000	人件費	24,911,229	歳出	修繕料	4,730,000	修繕料	0
		消耗品費	1,112,000	消耗品費	1,228,412		保険料	14,932	保険料	14,305
		光熱水費	2,376,000	光熱水費	1,975,098		指定管理料	41,003,000	指定管理料	40,942,000
		委託料	5,417,000	委託料	4,614,789		業務委託料	0	業務委託料	0
		賃借料	420,000	賃借料	620,476		土地・建物賃借料	0	土地・建物賃借料	0
		通信費	298,000	通信費	181,522		その他	0	その他	0
		保険料	665,000	保険料	461,202					
		修繕費	197,000	修繕費	187,603					
		旅費交通費	94,000	旅費交通費	61,244					
		事業費（市指定事業）	335,000	事業費（市指定事業）	360,987					
		研修研究費	127,000	研修研究費	55,585					
		広報費	40,000	広報費	46,249					
		福利厚生費	97,000	福利厚生費	95,670					
		公租公課	2,873,000	公租公課	3,012,758					
		一般管理費（本社経費等）	2,365,000	一般管理費（本社経費等）	2,324,000					
		計	41,617,000	計	40,136,824		計	45,747,932	計	40,956,305
収支	0		1,325,275		差引	△ 5,127,242		△ 5,119,538		
②市への納付金 ※納付金がある施設のみ	市への納付金	支出	0	支出	0					
③最終収支（①－②）	収支	0		1,325,275						
●自主事業 収支	自主事業収支	収入	530,400	収入	432,600					
		支出	582,400	支出	787,150					
		自主事業収支	△ 52,000	自主事業収支	△ 354,550					
分析	人件費比率【人件費／指定管理者事業支出】								62.1%	
	事業収支における経営分析			人件費については、産休復帰予定であった正規職員が年度中に復帰できず契約職員が従事したため計画額を下回った。 また、光熱水費については電気料金高騰のため高めに見積もったが、想定を下回った。						
	一般管理費が、計画額と実績額で異なる理由									

6 管理運営全般

※すべて「適」で「3」。「4」・「5」・「否」とする場合は、必ず特記事項欄に理由を記載すること。

区分	確認内容		適否欄	評価
市との連携	1 市への報告、連絡、相談又は協議が適切に行われたか		適	3
	2 市からの指示等に対し適切な対応が図られたか			
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が適正で有効に配置されているか		適	
	配置実績	センター長1名、副センター長兼理学療法士1名、看護師1名、保健師2名、管理栄養士1名、総合職3名		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか			
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか			
	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか			
平等利用	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		適	
	2 利用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか			
経理	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		適	
	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか			
施設・備品の維持管理	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実にされたか		適	
	2 備品は台帳、目録等を整備の上、管理が適正にされたか			
その他	1 日常的、定期的に業務の点検、監視がされたか		適	
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが適切な時期に提出されたか			
特記事項	センター内の鍵台帳と照らし合わせ、鍵が揃っているか毎月確認を行った。			

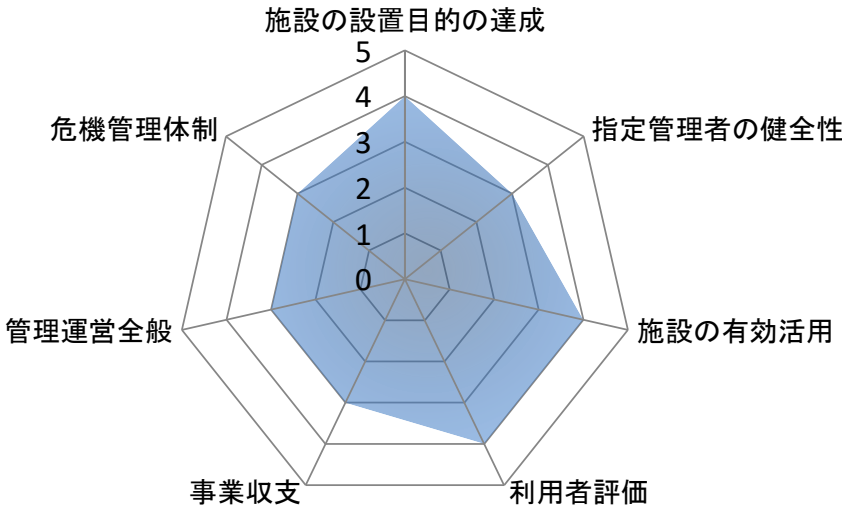
7 危機管理体制

※すべて「適」で「3」。1箇所でも「否」の場合は「1」。「4」・「5」・「否」とする場合は、必ず特記事項欄に理由を記載すること。

区分	確認内容	適否欄	評価
安全対策	1 危機管理マニュアルが整備されているか	適	3
	2 危機管理マニュアルの内容が職員に周知されているか		
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか		
個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	適	
防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか	適	
	2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	適	
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		
特記事項	定期的に関リスクマネジメント会議を実施し、安全対策等の話し合いを行っている。		

総合評価

【総合評価】 A：とても優れている／B：優れている／C：適正である／D：努力が必要である／E：改善が必要である

評価項目		評価	総合評価		保健・福祉施設	
総合評価	施設の設置目的の達成	4	B			
	指定管理者の健全性	3				
	施設の有効活用	4				
	利用者評価	4				
	事業収支	3				
	管理運営全般	3				
	危機管理体制	3				
評価理由		利用者総数及び男性の講座参加者数が増加。また、高齢者の関心が高い認知症や生活課題についての内容を取り入れた講座を実施するなど工夫が見られることや講座申込受付方法の改善など市民のニーズに即時対応できている。以上のことから総合評価をBとする。				
取組・改善案等	前年度からの課題・改善事項		実施状況		次年度へ向けての目標・取組・改善事項	
	・新規利用者の更なる拡充 ・多世代交流事業やイベントの開催（霞ヶ丘保育所との連携） ・多様な機関との連携及び外部講師や協力者の登用 ・市事業への協力		・新規登録者211名（前年比△20%） ・社協と連携した昔遊びやクリスマス会の実施 ・オレンジフェスティバルや介護予防フェスティバルの実施		・栄養改善室及び交流活動室の利用率向上 ・他機関と連携した多世代交流事業の実施 ・事業運営ボランティアの更なる活用 ・自主グループ立ち上げや活動活性化の支援	

指定管理者自己評価	
(1) 評価期間の取組に対する評価 ①サービス向上に向けての取組 介護予防の拠点として、健康維持・向上、栄養、社会参加の促進に重点を置いた取組を行った。利用者が主体的に活動できるよう支援するとともに、居場所づくりや安心・安全に利用できる環境整備に努めた。また、利用者ニーズを踏まえた新規事業の実施及び既存事業の見直しを行い、多様なプログラムを提供した。そして、季節コンサートや行事、交流機会の充実により、楽しく継続的に参加できる環境づくりを推進した。さらに、介護予防フェスティバル、脳トレ体操など認知症予防および身体機能の維持・向上にも力を入れた。 ②業務の効率化に対する取組 各種事業やイベントの運営にあたっては、職員のノウハウを活かすとともに、ボランティアや外部講師と連携し業務の分散を図った。介護支援ボランティア、ボランティアマッチングシステム「YELL」を活用し、受付や広報物折込等の協力体制の強化に努めた。 また、業務委託の見直しにより個別対応へ移行したことで業務量は増加したものの、内容の整理と運用の工夫により経費の抑制を図った。併せて、職員間の情報共有を進めるとともに、マニュアル整備や議事録の蓄積により業務の属人化防止と引継ぎの効率化に取り組んだ。 さらに、申込方法や講座運営手順については、利用者の意見を踏まえた見直しを行い、円滑な運営に努めた。 ③その他 関係機関（高齢者あんしん相談センター、東入間在宅歯科医療支援窓口、警察署、消防署、社会福祉協議会、保健センター、企業、大学、保育園等）と連携し事業の充実を図った。専門職が連携した講座「栄養つなぐプロジェクト（栄養＋運動）」の実施や、ストレッチ、お口体操、足指運動、リズム体操、栄養等の専門性を活かしたミニ講座の充実に努めた。また、「朝活」体操の分散実施等により、参加機会の確保と混雑緩和を図った。 (2) 管理業務実施上の課題 令和7年度は人員が定着し、安定した施設運営ができた。安全面においては、転倒等に配慮し、安心して利用できる環境づくりに努めた。一方で、館内はカーペット敷きで土足利用であることから、雨天時や選挙等の外部利用後に汚れが目立つことが課題である。定期的に清掃を実施しているが、清潔な環境維持に向けたさらなる対応の検討が必要である。 (3) 次年度以降の取組 介護予防拠点としての機能を維持しながら、地域ニーズに応じた事業やイベントを積極的に実施する。特に、栄養改善室及び交流活動室の稼働率向上に取り組むとともに、男性利用者の継続的な増加を図る。また、後期高齢者の増加を踏まえ、安全面への配慮を一層強化する。 さらに、若年層も参加しやすい講座の工夫や多世代交流イベントの実施によりセンターの周知を図り、居場所づくりの充実を推進する。併せて、利用者主体で活動できる自主グループの育成を進め、地域におけるサードプレイスとしての機能強化に取り組む。	